

# 江川 せせらぎ 緑道

横浜市都筑区  
都筑土木事務所

## 歴史

### 都市化の中で荒廃、「江川せせらぎ緑道」として再生

江川が流れる都筑区南部の低地には、かつて一面の水田が広がっていました。江川は、そうした水田に水を供給する農業用水路として利用されてきました。しかし、昭和30年代以降、周辺の都市化が進み農地が減少すると、次第に生活排水が流れ込んで水質が悪化したり、ごみが捨てられたりするなどして荒廃が進みました。

一方で、地域の方の江川への愛着は強く、ごみの回収などが続けられました。江川せせらぎ緑道のシンボルともいえる桜並木は、昭和60年代に、地域の方の呼びかけで植樹されたもので、約200本にもなります。

その後、水量の減少などもあり一時は埋め立ても検討されましたが、平成7年に下水道管の整備に合わせて「江川せせらぎ緑道」として水辺空間を活かした整備がされました。



都筑水再生センター

### 江川から鶴見川へ

江川せせらぎ緑道を下流へ辿っていくと、やがて鶴見川へ合流します。合流点には大きな水門があり、豪雨の際には浸水の発生を防ぐため、水門を閉めて江川せせらぎ緑道に水を貯めます。



増水時の川向付近の状況



江川せせらぎ上流部（佐江戸地区）  
佐江戸せせらぎ水辺愛護会

トンボやカワセミなど様々な生物が観察できる名所を目指して活動しています。



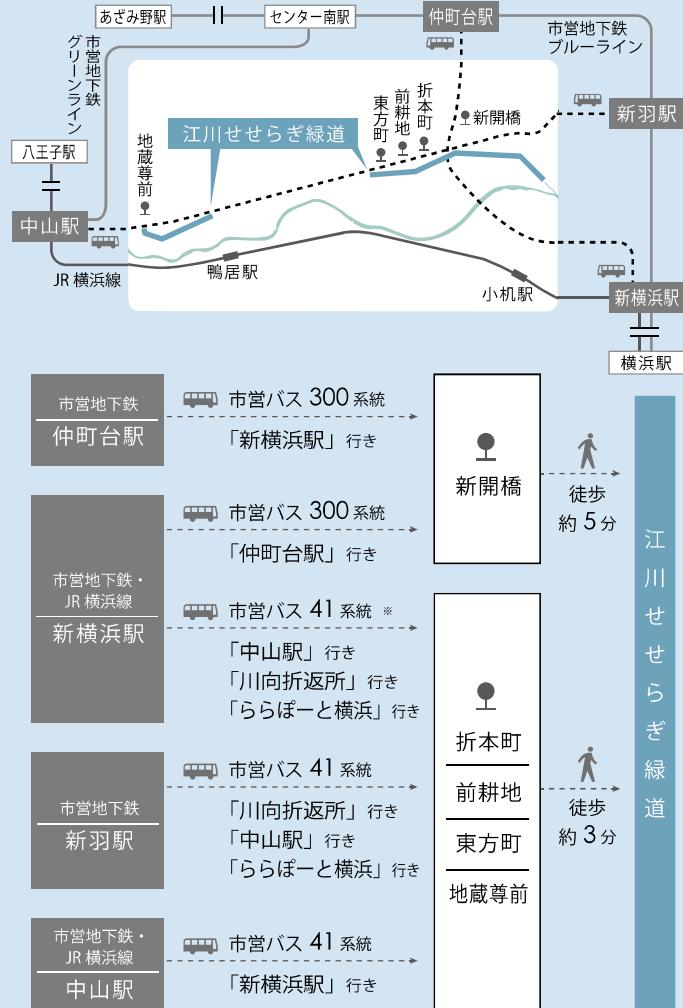
江川せせらぎ中流部（東方地区）  
都田江川水辺愛護会

花いっぱいの江川を目指して、春に見られる桜のトンネルと彩り豊かなチューリップのエリアで活動しています。

# 江川せせらぎ緑道

四季折々の花を眺めながら散策が楽しめる江川せせらぎ緑道。  
都筑水再生センターの下水処理水を利用した清らかな水流が街に潤いを与え、  
また、大雨の際には浸水を防ぐ役目を果たします。

## アクセス



※新横浜駅から乗車する場合、市営バス41系統の「鶴見駅西口」行きは停車しませんのでご注意ください。

\*江川せせらぎ緑道に駐車場はありません。公共交通機関のご利用をお勧めします。

## 利用上の注意

ルールを守ってきれいに利用しましょう。

- 水の中に入らない
- ゴミを捨てない
- 花を採らない
- 大雨時は高い所へ

## お問合せ

横浜市都筑区都筑土木事務所

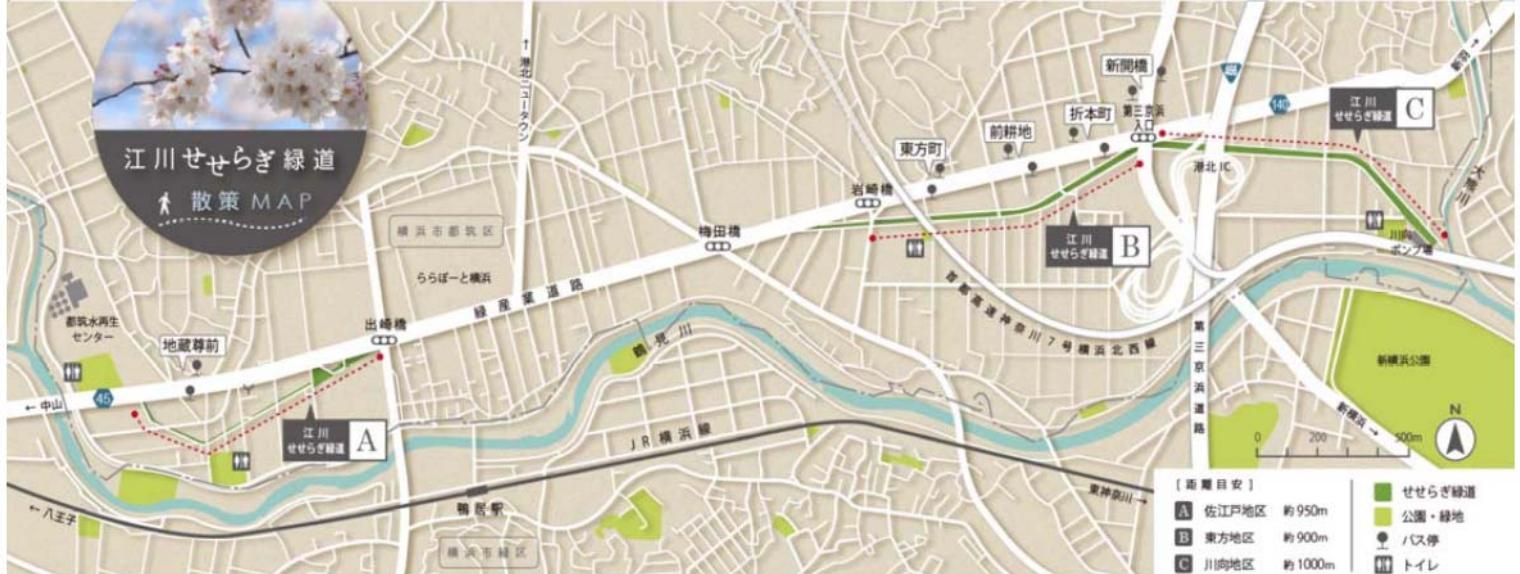
〒224-0032  
横浜市都筑区茅ヶ崎中央32-1  
TEL: 045-942-0606  
FAX: 045-942-0809



※令和2年1月時点の情報です。お出かけの際は最新の情報を確かめください。

令和2年1月版





**A 佐江戸地区** 江川せせらぎ緑道の「源流」にあたるエリアです。

佐江戸おちあい公園

地図上に示す主な場所：地蔵尊前、都筑水再生センター入り口、地蔵尊前、工場や住宅地の広がる地区、佐江戸町、出崎橋。

「雨露日安」

- A 佐江戸地区 約 950m
- B 東方地区 約 900m
- C 川向地区 約 1000m

木陰で一息つくことができる園地です。愛護会の方が世話をしている花壇もあります。カワセミの姿をみかけることもあります。

**B 東方地区** チューリップとサクラが織りなす景観が江川を代表するエリアです。

地図上に示す主な場所：東方町、岩崎橋、歩行者通路、向方橋、東方第二公園、新開橋、折本町、前耕地、川向橋。

「雨露日安」

- A 佐江戸地区 約 950m
- B 東方地区 約 900m
- C 川向地区 約 1000m

春にはサクラとチューリップの競演を楽しむことができる区間です。約 13,000 球のチューリップは愛護会や地域の小学生、企業の方などの手で植えられています。

サクラのトンネルを楽しめる区間です。初夏からは水辺に咲くサンバケンスの花も楽しむことができます。

**C 川向地区** 第三京浜道路の下をくぐると、やがて鶴見川本流に合流します。

地図上に示す主な場所：第三京浜入口、新開橋、港北IC、半助橋、川向町、川向しものや公園、川向ポンプ場、鶴見川。

「雨露日安」

- A 佐江戸地区 約 950m
- B 東方地区 約 900m
- C 川向地区 約 1000m

開放的な雰囲気の草地の中を蛇行しながら流れています。

土手の斜面にはところどころサクラも植わっています。夏にはトンボの楽園になります。

最下流には水門があります。大雨時には水門を閉め水を貯めることで浸水被害を防ぎます。